

「ふるさと沼隈を調べ、探り、つかみ、地域の良さをアピールしよう！」

本単元で育成する資質・能力

つながる知識 思考力・判断力・表現力 主体性 深める力 共感力

単元について

○ 生徒観

本校の校区には3つの小学校がある。各小学校で学んできた生活・総合的な学習は、環境、健康・食、伝統文化、福祉、町づくり等のテーマについて発達段階に応じてねらいとするものに共通性がある。一方、各小学校区の地域の特色を生かした学びを行っているため、学んできた内容は相違する。入学してくる生徒の約7割を占める千年小学校では地域の先人（山本瀧之助）から学ぶこと、能登原小学校は能登原とんどに代表されるような地域の伝統文化から学ぶこと、常石小学校は造船を初めとする地域の企業と結び付いた学び等、それぞれの地域の特色を活かした学習を行っている。学んできた内容と学び方は違っていても、ねらいとするものの共通性や育成してきた資質・能力に共通する点は多くある。地域への愛着と誇り、ESDの視点、様々な人への感謝、自分自身の前向きな生き方などが発達段階に応じて高まってきている。この違う点と共通する点を活かした学びを本校で行っていくことで、さらなる深い学びをもたらせていきたい。

入学して間もなく1年生は、1泊2日の教育合宿を行った。SAF（良好な人間関係づくりを推進する活動プログラム）体験活動の中で、課題発見・解決学習を通じて、集団を高める協働の在り方やそれぞれの違いを認め合うこと等について実感しながら学ぶことができた。また、千年中の一員としての自覚と校区のリーダーとしての自覚をもち、今後の中学校生活で成長していく意欲や集団の一員としての自覚ある行動の重要性などを学んだ。その後の中学校生活の中でも繰り返し、合宿での学びと結び付けながら自分の姿を検証し、より成長しようと前向きな姿を見せている。

中学校に入ってから入学式等の3年生、2年生の歌声のすごさや生徒総会で見せる毅然とした民主的な姿等、先輩たちの姿に驚きと憧れを持っている。特に、5月の体育祭の3年生をリーダーとして集団の高まりを見せるパフォーマンスの高いレベルに圧倒された。その中に、義務教育9年間の最終段階で目指すべき姿を見つけ、さらなる発展を目指すために、自分たちの立ち位置から今、すべきこと、今後目指すべきこと等、真剣に考え、実行へ結び付けようとする姿がある。

平成29年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査「生徒質問紙」肯定的回答の割合 広島県全体(2年生)及び本校2年生との比較		県平均 (2年生)	本校 (2年生)	本校 (1年生)	
全般	学校へ行くのは楽しいです。	87.2	95.6	87.7	
課題発見・解決学習	課題の設定	授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう?」「やってみよう」と思います。	68.4	83.8	86.9
	情報の収集	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり、取材をしたりしています。	39.9	42.7	52.6
	整理分析	授業では、調べたこと等を、図、グラフ、表などにまとめています。	53.1	54.4	61.3
	まとめ	授業では、調べたこと等を、図、グラフ、表などにまとめています。	53.1	54.4	61.3
	振り返り	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」「学習の方法で上手くいったことや失敗したこと等の理由」を考えています。	66.1	79.4	78.1
	その他	普段の生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習のすすめ方を使っています。	72.4	79.4	78.1
	総合	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいます。	67.5	79.5	78.1
		授業では、調べたこと等を、図、グラフ、表などにまとめています。	53.1	54.4	61.3
		授業では、調べたこと等を、図、グラフ、表などにまとめています。	53.1	54.4	61.3
		授業では、調べたこと等を、図、グラフ、表などにまとめています。	53.1	54.4	61.3

…70%以下の肯定的回答

…県平均以上

例年、1年生に対し、授業規律を確立していくことにかかなりの時間を費やしてきた。しかし、本年度は、入学当初から学びに向かう力を集団の中に感じることができ、授業規律もかなり確立した状態であった。早くから、授業の中に課題発見・解決学習等、本校の授業改善の重点としているものを取り入れることができた。「基礎・基本」定着状況調査の「生徒質問紙」の中の課題発見・解

決学習に関する項目等に絞って同様の調査を6月に行った。その結果、肯定的回答の割合は、全項目で県平均を上回った。2年生の「学校へ行くのが楽しい」(95.6%)に比較すると大きく下回っているが、今後の学びの充実感や学校生活の楽しさの実感によって高まると期待できる。なお、「地域に対する愛着と誇り」について90.8%であり、かなり高い。

小中一貫教育を推進してきて、入学時における生徒の課題を小中で共有し、改善に取り組んできたこと、育成すべき資質・能力に系統性を持たせ、各小学校間も自校の特色を生かしながら可能な限り共通性を持たせてきたこと、目指すべき授業の姿を小中で共有して授業改善に取り組み続けていること等の成果が徐々に表れ始めていると捉える。

本校の資質・能力の「つながる知識」の視点では、各小学校で学んだ内容の違いを有効に生かしたい。グループで探究的な学びをしていく際に、お互いによく知っている内容を交流することもでき、沼隈に対する知識がつながり、広がっていく。さらには、グループごとの違ったテーマに基づいた成果物の交流で、さらに深まり、広がっていくことが期待できる。

「思考力・判断力・表現力」は、最終的に発表を分かりやすく表現することを目標に高めていく。「主体性」については、探究の中で自ら課題を見だし、解決に向かうことを重視する。「深める力」は、他者の意見と自分の意見を比較し、さらに探究的に深める活動を通しての育成を目指す。「共感力」は、仲間と協働すること、人の意見に共感することを重視して取り組ませる。1年生の1学期だからこそ、この単元で本校の5つの資質・能力すべてを意識して、生徒全員に各資質・能力のレベル1達成の実感をもたらせ、項目によってレベル2や3に到達できた自信を持たせ、今後の中学校生活でさらに力を向上させたいという意欲へとつなげていきたい。

○ 単元観

【総合的な学習の時間の目標】 (新学習指導要領：平成30年度より完全実施)

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

本単元は、平成29年3月に公示され、次年度から完全実施される新学習指導要領の総合的な学習の時間の目標に示された内容を意識して次のような「ねらい」を持っている。

- (1) ふるさと福山・沼隈の産業や企業、伝統、歴史等について、各自の既存知識に加え、自ら調べた情報や他者から得た情報を比較し、整理し、つながりを持った知識を習得する。また、沼隈に関する新たな情報を収集する中で、さらに追究していく良さを体感し、探究的に学ぶ良さを実感させる。
- (2) 既存知識と新たに得た情報の整理・分析の中で、比較、分類、関連づけながら、ふるさと福山・沼隈の魅力の再発見と問いの見だしをスパイラルに行い、情報収集、整理・分析、新たな課題の見だし、……を繰り返し、見だした問いや根拠、情報を整理し、分かりやすく表現できるようにする。
- (3) 労働体験を通じて働くことの意義を捉え、仲間と協働する姿勢や主体的に行動する態度を養う。

(1)については、小学校段階での地域と密接に結び付いた体験学習、探究的な学習を通じて、その内容は各小学校によって違うこと、体験を通じて学んだこと探究の良さがある程度は実感できていること、ふるさと沼隈に誇りと自信が芽生え始めていること等の共通する点と内容は各小学校によって違うことを踏まえる。違う小学校出身者の知識と自分の知識をつなぐこと、さらに詳しく知っていくことなどを通して探究的な学びの良さを実感し、3年間の学びをスパイラルに発展させるための初期段階として設定する。本校の資質・能力の【つながる知識】と関連づける。

(2)については、「テーマの設定」(課題の設定)から情報の収集、整理・分析、根拠を持った自分なりの論述(解決策の創造)、新たな問いの見だし、……の流れを繰り返し、最終的には各自が発表会で分かりやすく表現することを目指す。比較・分類・違いの見だし等の思考ツールを上手く活用することによって本校の資質・能力の【思考力・判断力・表現力】を高める。

(3)については、入学当初のSAF(良好な人間関係づくりを促進するプログラム)体験、体育祭や2学期に予定している文化祭等の行事を通じた学び、日常の授業等を通じて仲間と協働し主体的に活動することのよさ、素晴らしさを徐々に実感しつつある。まず1年生段階では、互いの違いを認め合いながら所属する集団への積極的な参画意識を高めてきた。ここまで意識させてきたことは、学級・学年そして全校集団の一員としての自覚である。これに加え、所属する集団として、地域という視点をより明確にする。自ら調べ学ぶ【主体性】を発揮させ、より深く探究的に学ぶ【深める力】の良さを実感させ、共に体験し学ぶ仲間との協働や地域の良さを体感することによって【共感力】を高める。さらには、福山・沼隈に対する愛着と誇りをより高いものにしていく。

この単元の中心となる体験は「ブドウの袋掛け体験」である。7月の暑い中で、丸2日間の農園での立ち仕事によって労働の大変さを実感する。一つ一つのブドウを丁寧に袋掛けしていく心を込めた仕事の素晴らしさを深く感じ取ることができる。この体験前の調べ学習と体験後の新聞づくり及び発表交流、振り返りを効果的な流れとなるように単元を構成した。

沼隈を中心とした学びとなるが、福山市や広島県さらには日本全体に関わることも見えてくる。さらには、パラグアイ共和国と沼隈の深いつながりやサミットに出された「沼隈ブドウ」のこと等、新たに知らせることにより国際化社会の視点も入ってくる。これらのつながりが見えることと体験学習、調べ学習とが相乗し、本校設定の5つの資質・能力の育成とレベルアップを図りたい。

この単元を通じて、中学校初期段階のこの時期に探究的な学びの仕方と良さを学ばせ、より視野が広がり学びが深まる2年生の職場体験や修学旅行の探究学習へ発展させる。所属集団の視野も小集団から地域の一員、国際的にみた自分まで、この段階では広く浅くではあるが持たせ、3年間スパイラルに発展させ、所属集団への愛着と誇りをしっかりと持ち、自己の生き方をしっかりと考えていくことができるようにする第1段階としての単元として設定した。

○指導観

指導にあたっては、各自に福山・沼隈に関して調べたいテーマを設定させる。小学校段階までの既習事項に加え、グループの意見交流やオリエンテーションでプレゼンされた新たな知識を踏まえ、新たな興味がわいたことや疑問に思ったこと等から調べたくなった理由を明確にしてテーマ設定をさせる。その視点として、「大好き!福山〜ふるさと学習〜」の「Ⅰ 自然・環境」「Ⅱ 産業」「Ⅲ 歴史・伝統文化」「Ⅳ 先人」「Ⅴ 今・未来」「Ⅵ 自分の将来」を総合的に意識させる。その中から、テーマに沿って調べる内容を5点程度に絞らせる。

単元導入時のオリエンテーションでは、2日間の「ブドウの袋掛け体験」が中心となる体験活動であることを明らかにする。また、体験学習の後にはテーマに沿った新聞づくりを行い、全員が中国新聞の「みんなの新聞コンクール」に応募すること等、単元の見通しを持たせる。さらには、沼隈のブドウが洞爺湖サミットで振る舞われたことやブドウの歴史などのプレゼンを行い沼隈ブドウに対する予備知識を共通的・基本的なものとして知らせる。ブドウに各自のテーマが集中することも予想される。そこで、社会科で事前に、パラグアイへ沼隈地域から450名の移民の歴史とそれを支えた地元の造船を中心とした企業、農地を開拓し栽培した大豆が今では世界第4位の輸出国でその輸送も地元の企業であること等の学習を行う。また、学活等を使って自己紹介も兼ねて小学校時の総合的な学習の内容の交流や自分の出身小学校自慢を行わせる。さらには、テーマの具体と調べる内容を次のように例示して各自のテーマができるだけ多岐にわたるようにし、調べる内容を自分でイメージしやすくなるよう指導していきたい。

[テーマ設定の例示]

- ①沼隈ブドウ……ブドウの栽培方法、品種、商品流通、歴史、料理など
- ②農業・漁業……ブドウ以外の沼隈の農業、チリメン、海苔の養殖など
- ③地元の企業……常石造船とツネイグループ、沼隈の他の企業、福山のオリオン・ナバーン企業など
- ④文化・伝統……沼隈の先人(山本瀧之助等)、能登原とんど、備後表、平家物語と沼隈など
- ⑤交通・地形……沼隈の地形、交通の便と近隣地域とのアクセス、昼と夜の人口など
- ⑥観光・施設……阿伏兎観音、枝広邸、内海大橋、みろくの里、福泉坊、アリスト沼隈など
- ⑦福祉・保育……沼隈の福祉施設と保育施設、設立の経緯、働く人等

テーマを設定し視点を絞っていき、調べる内容に「問い」を持って臨ませる。調べていくうちに新たな「問いの見だし」や別の視点への変遷も自由にさせる。その際に「マッピング」の手法を用いる。問いに対して「仮説」を持って検証のために調べることの有効性も指導する。

2日間の「ブドウの袋掛け体験」では、マツダスタジアム18個分の広さがある八日谷樹園の実感と過酷な労働条件の中での丁寧な作業を通じて、沼隈が誇るブドウを自分としても誇れることを目指す。また、やり遂げた充実感と仲間と協働する喜び、自分たちの暮らしが様々な人の労働によって支えられていることへの感謝など貴重な体験の時間としていく。

労働体験後には、お世話になった方々へのお礼の手紙を書かせる。国語科と連携して手紙の書き方を学び、活用させ、その力が生活に役立つ力であることを実感させたい。

各自がテーマに沿ってまとめる新聞づくりでは、テーマ設定の理由、調べた内容、調べて分かったこと、感想・まとめは必須とし、その他の関連記事や写真やイラストは自由に工夫させる。全員分を中国新聞の「みんなの新聞コンクール」に応募する。また、校内でもコンクールを行う。各自発表原稿を準備させ、各クラスで順に黒板掲示して学級内発表を行う。その際に、相互評価表を全員に持たせ仲間の発表を4つの評価項目を各3段階評価する。その結果、上位6名（各班1名）を学級代表として、全体発表会の場で発表し、その中で最優秀賞、優秀賞を表彰する。

既存知識と新たに分かった情報との比較・関連・違いの見だし、他教科とつながりを持って学ぶこと、地域・社会とつながって探究していくことで【つながる知識】を一つの重点としたい。また、お礼の手紙や新聞づくり、全員が行う発表などを通じて相手に分かりやすくアウトプットする相手目線を大切に分かりやすく表現できるところに至ることを目指して【思考力・判断力・表現力】を高めていくことを二つ目の重点としたい。また、【主体性】【深める力】【共感力】も含め、すべて5つの資質・能力について、クリティカル・シンキングをつなぐキーワードとしながら意識させていきたい。全ての資質・能力について、本校設定のルーブリック表のレベル1を全員達成させ、【つながる知識】【思考力・判断力・表現力】については、レベル3の「身に付けた知識を地域・社会と結び付け、さらには自分の将来へいかに生かすべきか捉えている」「クリティカルに考え、判断し、相手意識を持って表現できる」に到達できた実感を実感するまでには持てるようにさせたい。

単元の目標

- (1) 福山・沼隈に関する小学校までの既習事項に加え新たに得た情報をつなげ、整理・分析することにより、地域とつながりのある知識を習得するとともに探究的に学ぶ良さを理解する。
- (2) 福山・沼隈について情報収集し、整理・分析、比較・分類・関連づけながら、良さの発見と課題の見だしを行い、相手に分かりやすくまとめ・表現できるようにする。
- (3) 労働体験を通じて働くことの意義を捉え、地域にたいする愛着と誇りを育成し、協働の意義や社会参画の意義を踏まえ、主体的に学ぶ態度を養う。

単元として育てたい資質・能力における評価規準

本校の育てようとする資質・能力の内容			単元として育てたい資質・能力を身につけた子どもの姿
知識	つながる知識	知 「既習事項」とのつながりのある知識 「他教科・領域」とのつながりのある知識 「地域・社会」「将来への活用」とのつながりのある知識	①福山・沼隈に関する小学校までの既習事項と他者から得た情報や新たに収集した情報を整理・分析し、比較・分類・関連付けて、活用できる知識として身に付けている。 ②地域を自分の所属集団の一つとして捉え、福山・沼隈と自分を結び付けて知識を身に付けている。
スキル	思考力 判断力 表現力	表 課題を正しく受け止め、目的に応じて考え、根拠を基に判断する力 思考・判断に至った過程を振り返り、クリティカルに考える力 自分の考えを相手に納得できるよう、分かりやすく表現する力	①比較・分類・関連付けの思考のための技法を使い、情報収集・整理・分析できる。 ②収集した情報を整理・分析する中で熟考し、根拠を明確にしてどうまとめるか判断できる。 ③自分が導き出した考えを、クリティカルに吟味し、相手に分かりやすくまとめ、表現できる。
意欲・態度	主体性	主 自ら課題を発見し、よりよく解決しようとする 時と場を踏まえ、目的に応じて自ら判断し、行動しようとする	①自ら課題発見、深く探り、見通しを持って主体的に行動し、その結果に自信を持つことができる。 ②地域の一員としての自覚を持ち、自分の住む地域の良さを再発見し、地域への誇りと自信を持って参画意識を高めている。
価値観・倫理観	深める力	深 「 <u>存む</u> 」(たたずむ)こと、「 <u>はっと気づく</u> 」こと 広い視野と細かな配慮を持って物事を捉える力 表面に見えていないものを感じ取り、深く思考を働かせる力 創造的な思考を働かせ、新たな価値を発見・創造しようとする力	①新たな情報や他者意見等により自分の既存知識と比較し、修正・加除し、見通しを持って、新たな価値の発見・創造に向かうことができる。 ②労働体験を通じて労働の意義と労働に対する感謝の心を持ち、ともに協働する仲間と思いやり・優しさ・助け合いの心を持って、活動に参画し、高まり合うことができる。
	共感力	共 「 <u>こだまし</u> 」, <u>うなずく</u> こと 他者意見を真摯に聴き、受け止め、相手目線で考える 関わり合いの中で、「思いやり・優しさ・助け合いの心」を持って行動する 仲間と協働し、ともに高まろうとする	

単元の終末におけるパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
<p>自分が設定した「テーマ」に基づき、福山・沼隈に関して既存知識に加え新たに得た情報、自ら探究した情報、さらには2日間の労働体験を関連付け、整理・分析し、「調べ探った内容」及び「分かった気づいた内容」等を掲載し、自分の生き方と結び付けた「まとめ・感想」も含め、観る・読む・聴く人に分かりやすく工夫して、福山・沼隈をアピールする新聞を作成しよう。</p> <p>◎全員、中国新聞「みんなの新聞コンクール」に応募する。</p> <p>◎校内発表会において、制限時間内で分かりやすく説明し、自分の新聞の良さ、探究的な学習を通じて学んだことをアピールする。</p> <p>①学級内発表 相互評価し、学級代表6名選出</p> <p>②全体発表 各学級代表が全体で発表 最優秀賞、優秀賞を表彰</p>	<p>A</p> <p>◎B基準に加え、地域の良さと自己の生き方をつなげて、自分の将来、地域の将来と関連付けて活用し発展できる知識として身に付けている。</p> <p>◎B基準に加え、新聞を観る・読む人のためのレイアウトや色の工夫などができ、発表の際の要点を整理して言葉の抑揚などにも相手意識を持った表現工夫ができる。</p>
	<p>B</p> <p>○福山・沼隈に関する小学校までの既習事項と他者から得た情報や新たに収集した情報を整理・分析し、比較・分類・関連付けて、活用できる知識として身に付けている。</p> <p>○思考ツールを活用し、整理・分析、さらなる課題を見だし、解決へ根拠を持って判断し、その経緯なども含め、新聞にまとめ、分かりやすく表現できる。</p>
	<p>C</p> <p>△集めた情報、身に付けた知識の関連が薄い。</p> <p>△集めた情報を整理し、まとめているが、表現する内容について根拠が不明確である。</p>

【単元導入時の学習プリント】

「ふるさと沼隈」を調べ、探り、発見しよう①	「ふるさと沼隈」を調べ、探り、発見しよう②
1年 組 番・名前	1年 組 番・名前
自分が調べる「テーマ」を決めよう！	テーマについて調べたいことを関連付けて考えてみよう！
自分のテーマ	調べたいことを□の中に入れて、関連することを連想してみよう！ 【マッピング】(例:福山の花「バラ」)
なぜ、それについて調べたいと思ったか、その理由	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">福山の花</div> → 沼隈の花は？ ↑ ピンク? ← <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">バラ色</div> → 幸せ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">育て方</div> → 種まきの時期 ↑ なぜ福山の花に? → 戦後復興 ↓ 良い土は? ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">バラ公園</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">○○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ローラちゃん</div> △△ □□□ </div>
調べたい内容	

【作成する新聞例】

レイアウト自由
昨年までの例や
「みんなの新聞
コンクール」の
記事を参考に
インパクトを
強く、分かりや
すく、自分なり
の工夫をしよう！

テーマ設定の理由		テーマに 関連	○ ○ ○ 新聞
調べた内容	写真	調べた内容	
気づき 発見	行 等	気づき 発見	
感想 まとめ 編集後記等			編集者 福山市立 千年中学校 1年○○組 ○○○○
			アピール文

指導と評価の計画

時	学習過程	学習内容	評 価				◆単元として育てたい資質・能力における評価規準 【資質・能力】	各教科等との関連		
			知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観				
1	課題設定	<p>「ふるさと沼隈」を調べる「テーマ」を決めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・「沼隈ブドウ」に関する情報をPPで得て、興味を高める。 ・「ブドウの袋掛け体験」を中心に単元の学習の流れを知る。 ◇グループ交流 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校までに学んだ内容、知っている内容を交流 ◇各自の「テーマ」を決定 ◇調べる内容を数項目決定 <ul style="list-style-type: none"> ・例を参考にする。 ・テーマ設定理由を明確にする。 ・マッピングを活用する。 ◇内容に関連した「問い」を見だし、仮説を立てる。 ・根拠は不明確でもよい。 			○		<p>[意欲・態度—①] 課題発見…「問い」の見だし深く探る…興味を持って調べる見通し…マッピングを活用し関連する内容を整理主体的…興味・関心を持って自ら進んで活動に参画結果に自信…テーマ設定理由明確(行動観察, ワークシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会(地理) 「世界各地の人々の生活と環境」(1年) ※パラグアイと沼隈「身近な地域の調査」(2年) ・理科 「人間と環境」(3年) ・家庭科 「調理と食文化」(1年) 		
			<p>自分の既存知識に加え、他者からの情報、新たに得た情報から興味・関心を持ちたり、疑問をもったりしたこと、自ら調べてみたい「テーマ」「内容」を整理し、テーマに沿った「問い」を見いだす。自ら「課題発見」することによって、この単元の学びに主体的に取り組もうとする意欲を高める。</p>							
2	情報の収集→整理・分析→課題の再編→情報の収集→整理・分析→新たな課題	<p>自分の「テーマ」に沿って、沼隈に関する情報を収集、整理・分析し、考察を経て、新たな「問い」を見だし、さらに深く探っていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「テーマ」に沿った「内容」に関する「仮説」を検証するための根拠となる情報を収集し、整理・分析する。 ①インターネットや資料等から「テーマ」「内容」に関する情報を収集する。 ②集めた情報をグラフや表などを使って整理・分析する。 <ul style="list-style-type: none"> ・比較、分類、違いの見だし等の思考ツールを用いる。 ・立てた初期「仮説」の検証 ③「仮説」を修正しながら、根拠を明確にして、自分なりの結論を導き出す。(④又は⑤へ) ④③で導いた結論をさらに、第二次「仮説」として、より詳しく調べ検証する。 ⑤別の「内容」について「問い」を見だし、新たな「仮説」の検証のための情報を得る。 			○		<p>初期「仮説」は、根拠不明確な「予想」である。「本当にそうなのか?」「ちょっと待て…」とより確かな根拠を求めたり、「他に関連することは?」と広がり追求したり、クリティカル・シンキングを繰り返し、探究的な学びへと導く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会(地理) 「身近な地域の調査」(2年) ・理科 「人間と環境」(3年) ・科学技術の利用と環境保全(3年) ・数学 「比例・反比例」(1年) 「資料の活用」(1年) 「一次関数」(2年) ・家庭科 「調理と食文化」(1年) 		
3					<p>明確な根拠を得るためにどのような情報が必要か考えさせ、インターネットや資料等を使って情報収集する。それを整理・分析していく際には、比較・分類・違いの見だしの思考ツールを用いるとともに、アウトプットする際に相手に分かりやすく説明できるように表やグラフ等にまとめることによってデータの活用力育成も図る。関連事項への広がりも持たせ、読む・聴く人に興味が高まり、インパクトが強く、「なるほど!」と納得させる「根拠明確な説明」となることを目指させる。</p>					
4										
5										
			<p>[価値観・倫理観—①] 新たに得た情報によって修正、加除しながらレベルアップしている。(行動観察)</p>							
			<p>[知識—①] 収集した情報を整理・分析し、身に付けた知識を活用している。(行動観察, ワークシート)</p>							
			<p>情報分析している段階で、他の関連する事項への探究心が湧いてくるように補助発問等を工夫する。一つの視点から関連視点へとつながり、物事を多面的・多角的に捉える事が今後の将来へ向けて新しい価値の創造にもつながることを実感させる。</p>							

時	学習過程	学習内容	評 価				◆単元として育てたい資質・能力における評価規準 【資質・能力】	各教科等との関連
			知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観		
6 ～ 18	体験学習	<p>沼隈が誇るブドウづくりを実際に体験し、働くことの意義や大切さを知ろう。</p> <p>2日間の「ブドウの袋掛け体験」</p> <p>◇7月11、12日の2日間の「労働体験」として沼隈が誇るブドウの栽培としての袋掛けを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農協の方からブドウづくりの概略について説明を受ける。 ・八日谷樹園の広さを実感する。 ・丁寧に一つ一つ袋掛けすることで品質が良くなることを体感する。 ・過酷な条件の中でも誇りを持って働く意義を実感する。 ・やりがいを持って働くことと自分の進路への展望を結び付ける。 			○	○	<p>〔意欲・態度—②〕 地域の一員としての自覚 地域の良さの再発見 地域に対する自信と誇り (事後の感想文)</p> <p>〔価値観・倫理観—②〕 労働の意義、労働に対する感謝 (事後の感想文) 協働、思いやり・優しさ・助け合いの心 (行動観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会 「身近な地域の調査」(2年) ・理科(生物) 「花のつくりとはたらき」(1年) 「水や栄養分を運ぶ仕組み」(1年) 「栄養分をつくる仕組み」(1年) 「植物の仲間わけ」(1年) ・数学 「平面図形, 空間図形」(1年) 面積 ・家庭科 「食生活と栄養」(1年)
19	まとめ・整理・分析 創造・表現	<p>「ブドウの袋掛け体験」でお世話になった人に手紙を書こう！</p> <p>◇郵便局から一人1冊ずついただいた「手紙の書き方」の冊子から手紙の書き方を学び、実際に労働体験でお世話になった人へ「お礼の手紙」を書き、送付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宛名, 差出人の書き方, お礼状の書き方等を学び, 礼儀・マナーを守った手紙を書く。 ・学んだこと, 苦労したこと, 自分としての思いを感謝の言葉とともに盛り込んで, 相手に伝わりやすく書く。 		○		○	<p>〔スキル—③〕 相手に伝わる分かりやすい表現 (手紙の内容)</p> <p>〔価値観・倫理観—②〕 地域の一員としての自覚, 感謝 (行動観察)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 「つながりの中で」(1年) 「関わりの中で」(2年) 気もちを込めて手紙を書こう ・国語(書写) 「楷書」(1年) 「学習したことを生かして書こう」(3年) ・社会 「身近な地域の調査」(2年)
20 21	創造・まとめ・表現	<p>自分のテーマ, 調べた内容に基づき, 「ふるさと沼隈」をアピールする新聞を作成しよう！</p> <p>◇「みんなの新聞コンクール」の原稿用紙で新聞を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「テーマ」「テーマ設定の理由」「調べた内容」「分かったこと, 気づいたこと」「感想」「今後の自分の生き方」等を盛り込む。 ・レイアウトや写真, イラストを効果的に取り入れ, 読む人に興味を湧き立たせる工夫をする。 ・導き出した考えは, 根拠を分かりやすく説明することに留意する。 <p>◇発表原稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人5分以内の制限時間 ・テーマ設定の理由, 調べた内容, 分かったこと, まとめ, 感想を簡潔にまとめ, 相手に伝わりやすくするための工夫をする。 		○		○	<p>〔スキル—③〕 根拠を明確に分かりやすく表現 興味を湧き立たせるインパクトある表現 (行動観察, 新聞内容)</p>	<p>相手意識があること, 根拠が分かりやすく明確であることが説得力のあるものであること, まとめのレイアウトは見る人にインパクトのあるものにする…等の今までの学びで得た「つながった知識」をアウトプットして「活用できる知識」に変える。</p> <p>気づいた良さや課題, 発見又は創造した新しい価値について, アウトプット対象となる発信相手の目線で考えさせることによって, この学びを通じて自分の視野が広がってきたことを実感させる。</p>
22 23	【学級内発表】 実行	<p>学級内で発表しよう。他のプレゼンを受け止め, 自分の考え方とつなげ, さらに広げよう。</p> <p>◇各自, 発表原稿に基づき作成した新聞をプレゼンする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の留意事項, 聴く態度の留意事項を厳守する。 ・4観点の3段階で相互評価する。 <p>①テーマ設定の理由が明確で分かりやすい。 ②テーマに沿って資料, 情報をしっかり収集している。 ③相手に分かりやすくまとめている。 ④発表の仕方(声の大きさ, 表現の工夫等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上位6名(各班1名ずつ)を選出 				○	<p>〔スキル—③〕 聴く人に分かりやすく伝わる表現 (行動観察, 発表原稿)</p>	<p>プレゼン経験をさせ, 他のプレゼンを聴くことにより自分の視野をさらに広げることができることを実感させる。</p>
24 25	【全体で代表の発表】 実行・振り返り	<p>代表発表を聴き, その良さを受け止め, 自分の学びを振り返って深めよう。</p> <p>◇各クラス代表者が全体発表会で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞, 優秀賞を表彰 ・他の発表を聴き, 自分の学びと比較し, さらに深く学ぶ。 <p>◇この単元の学びをじっくり振り返り, 今後の自分の生き方, 学び方について考え, 振り返りシートにまとめる。</p>	○			○	<p>〔知識—②〕 (行動観察, 振り返りシート)</p>	<p>今まで学んだ内容, 出会った人・情報について振り返らせる。「どのように深まり, 広がってきたか」から探究的な学びの素晴らしさを実感させる。深めるときの「自分との対話」に気づかせ, 変化の激しい社会にたくましく生きる「今後の自己の生き方」にもつなげる。</p>

本時の学習

(1) 本時の目標

自分の設定した「テーマ」に基づき、沼隈の情報を集め、比較し、分類、関連づけて、整理・分析し、良さの発見と課題の見いだしを行う。

情報の収集

整理・分析

(2) 準備物

ワークシート、「大好き！福山～ふるさと学習～」(下巻)、
「みんなの新聞コンクール」パンフレット、各グループで準備した資料(図書資料等)

課題の再編

(3) 学習展開(3限目/25)

	学 習 活 動	指導上の留意点(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が調べた内容と本時で調べようとしている内容の確認をする。 ・グループ内で互いの調べた内容を簡単に交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の調べた今まで調べ、探究してきた内容についてグループ内で交流することで、他を参考によりレベルアップしようとする意欲を高める。 ◇これから調べようと思う内容を再度確認させる。 	
<p>【ねらい】今まで調べてきた内容から、さらに新たな「問い」を見いだして検証したり、関連する内容とつなげ広げたりして、自分の探究的な活動を深め、広げよう。</p>			
展開 (40分)	<p>【交流】→【比較】→【新たな探究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「さらに深める」か、関連した内容について「広げて調べる」かの方向をグループ内の他者意見を参考に、本時の方向性を決める。 (深める方向) ・場所、過去・現在・未来、別の視点等 (広める方向) ・マッピングを利用した関連事項 <p>[情報の収集・整理・分析]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①インターネットや資料等から情報を収集する。 ②集めた情報をグラフや表などを使って整理・分析する。 ・比較、分類、違いの見いだし等の思考ツールを用いる。 ・「仮説」や導き出した「自分の考え」の根拠が明確になるか検証する。 ③さらに修正しながら、根拠を明確にして、自分なりの結論を導き出す。 (④又は⑤へ) ④③で導いた結論をさらに、第二次「仮説」として、詳しく検証する。 ⑤別の「内容」について「問い」を見だし、新たな「仮説」の検証のための情報を得る。 [まとめ、創造に向けて] ○新聞のレイアウトを考える。 ・現時点まで調べ、分かったことをどのように盛り込み、レイアウトしていくか。 ・次時にどのような内容をどのように調べて、新聞にどのように載せていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇他者意見を参考にして、「深める方向」又は「広げる方向」のどちらを選択するか、自分の意志で自由に意思決定させる。 ◇「問い」に対する「自分の導いた考え」について、根拠を明確にして相手に納得させられるレベルを目指すことを意識させる。 ◇別の視点等から「自分の考え」を検証してみると、新たな気づき、新たな価値の発見につながる可能性があり、自分でクリエイティブ・イノベーション(新たな価値の創造)を成し遂げられるかも知れない。」と促し、意欲を高める。 ◇沼隈を調べながら、福山全体のことも意識しながら情報を収集することを勧める。 ◆グループ内で資料の整理・分析の仕方について、互いにアドバイスしたり、助け合ったりさせる。状況に応じて教師からの支援を行う。 ◇調べた内容をそのまま表現するのではなく、そこに自分の考えを持てるように促す。 ◇比較、分類、違いの見いだしの思考ツールを使わせるために、何かと「比べる」ことから始めてみると良いことをアドバイスする。 ◇調べ考える際に、各自黙って「うーん」とうなる瞬間があることが望ましい。 【自分との対話】 ◇①～⑤の流れを繰り返しながら、探究的な学びを推進する。 ◆「深まり」よりも「広がり」の方向でクリティカルに考えていくように仕向けていく。 	<p>〔知識①〕 福山・沼隈に関する小学校までの既習事項と他者から得た情報や新たに収集した情報を整理・分析し、比較・分類・関連付けて、活用できる知識として身に付けている。 (行動観察、ワークシート)</p>
振り返り (5分)	<p>[グループ協議]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループ内で本時の授業前と授業後の変化について簡単に伝え合う。 <p>[振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の探究的な学びをふり返り次時以降への見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「仮説」の検証を繰り返し、深めていったこの活動が「探究的な学習」であり、深い学びにつながってきていることを肯定的評価する。 ◇修学旅行で実際にどのような場所を訪れ、どのようなものを観て、体験して、調査したらよいのか等について検討していくことの必要性を伝える。 	
<p>【振り返り】 「テーマ」に関連する他の「内容」について広げて調べたことで、調べた内容につながりが生まれ、互いを結び付けてクリティカルに考えていくことができた。</p>			